

第3学年1組 図画工作科学習指導案

指導者

研究主題

つくりだすことに熱中する図画工作科学習
～対象との対話を重視しながら、自分らしく表現できる子どもの姿を求めて～

1. 題材名 どんどん広がれ！だんボール遊び A表現（1）

2. 指導観

- 本学級の児童は、これまでに題材「光と色のファンタジー」では、4人で1つの共同作品をつくる活動や題材「長い紙、つくって」では、協力して活動を広げていく経験をした。そのため、友達と対話をしながら造形活動を行うことに関心を高めている。更に、題材「タイヤをつけて出発進行！！」では、段ボールを巻いてタイヤをつくったり、空き箱や紙コップなどの紙素材の材料を組み合わせ、木工用ボンドで接着したり、「色付け花紙（花紙に洗濯糊と適度な水を混ぜてつくった色付けの材料）」を活用して、つくったおもちゃの表面に色付けをしたりする経験もしている。この題材に取り組んだことにより、のりしろを考えながら接着する技能は向上した。しかし、対象の形の特徴を捉え、自分が表したいと思ったことを、表現することができるようになったとは言い切れない。1学期のアンケート調査では、「図画工作科の授業で材料から新しいアイデアを思い付くことがあるか。」という質問では、19%の児童が、「どちらかといえばそう思わない。」「そう思わない。」と答えた。また、「図画工作科の授業で、かいたりつくったりしながら新しいアイデアを思い付くことがあるか。」という質問では、26%の児童が「どちらかといえばそう思わない。」「そう思わない。」と答えた。この結果を踏まえ、児童が材料と出会い、感覚や行為を通して材料に働きかけて、そこから発想して表し、つくり、つくりかえ、つくるという表現の発展や活動の広がりを実感できるようにしていきたい。
- 本題材では、段ボールカッターで段ボールを切り取り、切り取った段ボールの形や大きさを生かしながら、重ねる、高く積む、組み合わせるなどの接着や加工を工夫したり、既習の「色付け花紙」を使って色付けをしたりする活動を通して、友だちや自分、材料と対話をしながら、つくったものをつなげて、活動を広げることをねらいとしている。低学年で行った、対象を並べたり、つないだり、積んだりする活動経験を基に、中学年では、更に発展させ、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりする造形活動も取り組むことは重要である。また、この時期の児童は、手などの働きも巧みさを増し、適切に扱える材料や用具の範囲が広がり、多様な試みが見られる。そのため、児童にとって身近な段ボールという材料を、段ボールカッターで切り取ったり、段ボールの接着や加工をしたりする技能を身に付けさせることができる。更に、切り取った段ボールは平面であるが、重ねたり、並べたり、組み合わせたりすることで、平面がやがて立体となる。つまり、造形活動を進めながら、量感や空間把握を実感することができるため、高学年との系統性もある題材である。
- 指導に当たっては、初めに、段ボールカッターで段ボール1箱を残すところ無く切り取り、様々な形や大きさの段ボールを集め、こだわりの形を発表する。児童が発見したものは、「段ボールパーツ・コレクション」として、まとめ、形を意識しながら切り取れるように、掲示する。集めた段ボールは、形や大きさごとに、「材料ボックス」に分類して、共有の材料とする。次に、段ボールを、重ねる、高く積む、組み合わせるなどの接着や加工を工夫し、友達の表し方なども参考にしながら、つくるようにする。また、1グループ5人に、既習の「色付け花紙」8色を使い、色付けを

行う。更に、友だちや自分、材料と対話をしながら、互いがつくったものをつなげて、更に活動を広げていく。そのため、「友達タイム」を設定し、どこに何を接着するか、また、どんな色付けをするかについて、周りの友達と相談しながら造形活動を行う。最後に、つなげて、広げた活動に自分なりの意味や価値付けをし、思いを伝え合い、ふりかえるようにする。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

① 題材設定の工夫について

学校で集める事のできる段ボールは立体にしたときの大きさや形にバラつきがあり、不揃いであるため、立体にして、つなげたり、並べたりする際には、なるべく均一の大きさや形の段ボールを材料として集めたい。しかし、クラス全員が楽しんで、活動できるための、十分な量の段ボールを集めることは困難な場合がある。そこで、段ボールを立体にして組み合わせるのではなく、段ボールを段ボールカッターで切り取り、切り取った平面の段ボールを、重ねたり、並べたり、組み合わせたりして立体に表すようにした。つまり、造形活動を進めながら、自然に量感や空間把握を実感することを学習課題に設定した。また、第3学年には、段ボールを材料にした題材「だんだんだんボール」があるが、第4学年には、教科書に掲載されておらず、第5学年で題材「でこぼこ広場に絵の具が走る」や「段ボールで試して、つくって」に取り組むことになるため、中学年と高学年の内容に系統性をもたせ、取り組むことに重点を置いた。更に、10月に取り組んだ、題材「タイヤをつけて出発進行！！」では段ボールを巻いてタイヤをつくったり、のりしろをつくり、加工や接着をしたり、「色付け花紙」を使って、つくった乗り物に色付けをしたりしている。このように、様々な既習の知識や技能を生かして、表し方を工夫する事ができるような題材設定になっている。

② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」段階では、「段ボールカッターを使って、1箱の段ボール箱に隠れている形を全て見つけ出し、切り取ってみよう。そして、1箱を残すところなく使い切ろう。」という提案をして、形を見つげ出す児童の探究心を刺激し、「段ボールパーツ・コレクション」として切り取った段ボールの形に焦点化できるようにする。「みつける・あらわす」段階では、「材料ボックス」を活動の場に設定し、形や大きさごとに分類して、お気に入りの形を選びやすくする。更に、選んだ段ボールを重ねたり、高く積んだり、組み合わせたりして様々な接着や加工の表し方を見付ける。色付けを行う際には、1グループ5人で8色の「色付け花紙」を準備して、特別な教育的支援を要する児童と進んで表わしている児童を同じグループで活動させて、「友達タイム」での対話を通して、造形活動に生かすことができるような編成をする。「あじわう」段階では、造形的な見方、考え方を働かせ互いのよさや面白さについて、発表し合うことで、形や色などに豊かに関わる事ができるようにする。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

① 感じたことを共有する言語活動について

言葉のパレット 「段ボールパーツ・コレクション」	切り取った段ボールの形を紹介し合ったり、作り方を伝え合ったりして、言葉のパレットにまとめ、共有し合い、形や大きさにこだわりをもって、切り取ることができるようにする。
「材料ボックス」	「段ボールパーツ・コレクション」で集めた段ボールを形や大きさごとに、分類

	して、「材料ボックス」に入れることで、児童が形や大きさにこだわりながら材料を選択し、表していくことができるようにする。
「友達タイム」	互いのつくったものを見て、表し方を伝え合ったり、材料を交換したりして、活動を広げていくことができるようにする。

② 対象との対話の積み重ねと学習評価の工夫について

ふりかりシート	毎時間，色や形についての工夫や気付き，困ったこと記録をすることで，自己表現の変化に気付き，次時の見通しをもつことができるようにする。更に，児童が困ったことについては，次時の授業までに，教師が対策・改善をする。
ビデオ評価	教師が他の児童に対応をして，当該児童に対応できない場合は，授業を撮影しているビデオカメラに工夫点や気付きを発表する。教師は，授業後にビデオを見返し，机間指導で見逃した，児童の気付きや発見を正しく評価することができるようにする。
カメラ評価	児童が，自他の作品のよさや工夫を見つけた場合，自主的にカメラ撮影を行う。また，教師は撮影した児童を把握することで，正しく評価することができるようにする。

4. 特別な教育的支援を要する児童に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	対象児童	番号
<ul style="list-style-type: none"> 発想や構想でつまづいている。 表したいことが思い付かない。 	表し方が決まるまで，切り取った段ボールを重ねたり，高く積んだりして，試しながら遊ばせ，やり直しができることを伝える。発想や構想，表したいことがまとまったら，木工用ボンドで接着するように伝える。	A児 B児 C児 D児	①
<ul style="list-style-type: none"> 技能的な面でつまづいている。 段ボールの加工，接着，色付けの工夫が上手くない。 	(1) 「段ボールパーツ・コレクション」を見て，友達の表し方を参考にするように伝える。 (2) 進んで表し方を工夫している友達の近くで造形活動が出来るようにグループ編成をしたり，互いに工夫を伝え合う時間（友達タイム）を設定したりする。	A児 B児 E児 F児 G児	②

5. 目標

造形への関心・意欲・態度	○ 段ボールの触感や量感，形，色の感じを味わい，進んで切ったり，組み合わせたりしようとしている。
発想や構想の能力	○ 互いにつくったものをつなげたり，色付けをしたりして，活動を広げることができる。
創造的な技能	○ 材料や用具を適切に使い，自分の表したい表現にすることができる。 ○ 『色付け花紙』を使って，思いやイメージに合わせて色付けすることができる。
鑑賞の能力	○ 活動について話しながら，互いの活動のよさや，材料や場所のおもしろさを感じ取ることができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準および評価方法
		◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u> ★ 特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援	
で	1 段ボールカッターを使	○ 段ボールカッターの使い方を伝え，	【関】段ボールの触感や量

あ う	<p>って、形や大きさの異なる段ボールを切り取り、「段ボールパーツ・コレクション」をする。</p> <p style="text-align: right;">①</p>	<p>思いのままに段ボールカッターを動かして、段ボールの形を切り取ることができるようにする。</p> <p>○ 段ボール1箱を残すところなく切り取るように声かけをして、様々な形や大きさの段ボールを切り取ることができるようにする。</p> <p>◎ <u>互いが発見した面白い形を発表しながら、「段ボールパーツ・コレクション」にまとめる。</u></p> <p>★ 手だて②(1)</p>	<p>感、形や色の感じを味わい、進んで働きかけている。</p> <p>(行動観察・発言・ふりかきシート・動画撮影・写真撮影)</p>
み つ け る ・ あ ら わ す	<p>2 切り取った、段ボールの大きさや形を生かしながら、接着や加工の表し方を工夫し、『色付け花紙』で色付けをする。</p> <p>(1) 段ボールを巻いたり、接着を工夫したりして表す。</p> <p style="text-align: right;">②</p> <p>(2) 『色付け花紙』を使って、つくったものに、色付けを行う。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p>3 互いにつくったものをつなげたり、色付けしたりしながら、活動を広げる。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p style="text-align: center;"><本時4 / 4></p>	<p>○ 自分が切り取った段ボールや「材料ボックス」から選んだ段ボールの形や大きさを生かして、重ねたり、高く積んだりしながら、接着や加工を工夫して表すことができるようにする。</p> <p>◎ <u>互いの表し方を伝え合うために「友達タイム」を設定する。</u></p> <p>★ 手だて①(2)</p> <p>○ 1グループ4人～5人で編成し、8色の「色付け花紙」を使って、色付けをすることで、思いやイメージに合わせて、表すことができるようにする。</p> <p>◎ <u>互いに色付けしたものを見せ合ったり、表し方を伝え合ったりするために「友達タイム」を設定する。</u></p> <p>★ 手だて②(2)</p> <p>○ 互いにつくったものを、切り取った段ボールでつなげて、新しくつなげた場所に『色付け花紙』を活用して色付けをすることで、活動を広げることができるようにする。</p> <p>◎ <u>互いにつくったものをどのようにつなげるか、また、どのように色付けを</u></p>	<p>【創】材料や用具を適切に使い、自分の表したい表現にすることができている。</p> <p>(行動観察・発言・ふりかきシート・動画撮影・写真撮影)</p> <p>【創】『色付け花紙』を使って、思いやイメージに合わせて色付けすることができている。</p> <p>(作品・行動観察・ふりかきシート・動画撮影・写真撮影)</p> <p>【発】互いにつくったものをつなげたり、色付けをしたりして、活動を広げている。</p> <p>(作品・行動観察・ふりかきシート・動画撮影・写真撮影)</p>

		<p>するかを話し合わせるために「<u>友達タイム</u>」を設定する。</p> <p>★ 手だて①②(1)(2)</p>	
あ じ わ う	<p>4 互いの作品のよさや面白さについて、発表し合う。</p> <p>①</p>	<p>◎ <u>こだわった場所やよさ、面白さを見つけ合い、伝え合うことで、つくりあげた満足感を味わうことができるようにする。</u></p>	<p>【鑑】活動について話しながら、互いの活動のよさや、材料や場所のおもしろさを感じ取っている。</p> <p>(発言・ふりかきシート)</p>

7. 本時の学習 平成30年11月6日(火) 第5校時 体育館

- (1) 主眼 互いがつくったものをつなげたり、色付けをしたりする活動を通して、友だちと協力し合い、活動を広げることができるようにする。
- (2) 準備
- ① 教師 段ボール、ブルーシート、木工用ボンド、材料箱、花紙、洗濯糊、ソースボトル、軍手、ダンボールカッター、皿、ハケ、おてふきタオル、わりばし
- ② 児童 はさみ、材料袋(ビニール袋)
- (3) 展開

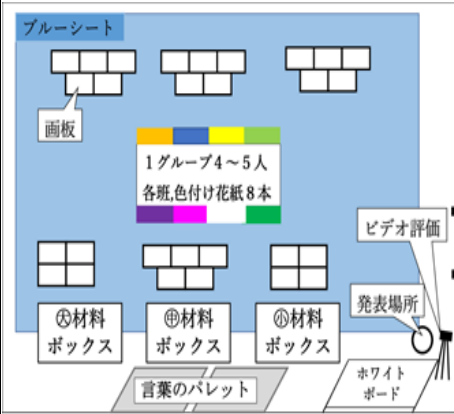
	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援のポイント ◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u>
で あ う	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1) 友達がつくったものを見て、段ボールの加工や接着、色付けの工夫について振り返る。</p>	<p>○ 友だちのつくったものを提示し、段ボールの加工や接着、色付けの工夫について振り返り、様々な表し方に気付くことができるようにする。</p>
	<p>めあて つくったものをつなげたり、色付けをしたりして活動を広げよう。</p>	
	<p>(2) これからの造形活動の見通しをもつ。</p>	<p>○ 本時の活動では“友達のつくったものと自分のつくったものを組み合わせ、そこに色付けをする。”ことに焦点化できるようにする。</p>
み つ け る ・ あ ら	<p>2. 材料袋や材料ボックスにある段ボールパーツを使って、互いのつくったものを組み合わせ、色付けをする。</p>	<p>○ 互いのつくったものを動かして、つなぎたい場所や色付けをしたい場所を見付けることができるようにする。</p> <p>★ 手だて①・手だて②</p> <p>◎ <u>どのようにつなげるか、また、どのように色付けをするかを話し合わせるために「友達タイム」を設定する。</u></p>
	<p>ぼくは、A君と一緒に作品をつなげてみたよ。つなげた場所には、青く色付けしてみたよ。</p>	<p>【発】互いにつくったものをつなげたり、色付けをしたりして、活動を広げている。</p>

わ
す

B君の段ボールの重ね方や接着の仕方を見学してみたら、いい感じにつながることができたよ。



《設定した場の図》



(作品・行動観察・ふり返しシート・動画撮影・写真撮影)

★手だて

- ◆ 発想や構想でつまずき、活動が進まない子どもに対する支援
 - ① 表し方が決まるまで、切り取った段ボールを重ねたり、高く積んだりして、試しながら遊ばせ、やり直しができることを伝える。発想や構想、表したいことがまとまったら、木工用ボンドで接着するように伝える。
- ◆ 技能的な面でつまずいている子どもに対する支援
 - ② 「段ボールパーツ・コレクション」や「接着コレクション」を見て、友達の表し方を参考にするように伝える。
 - ③ 進んで表し方を工夫している友達の近くで造形活動が出来るようにグループ編成をしたり、互いに工夫を伝え合う時間（友達タイム）を設定したりする。

〈予想される活動〉

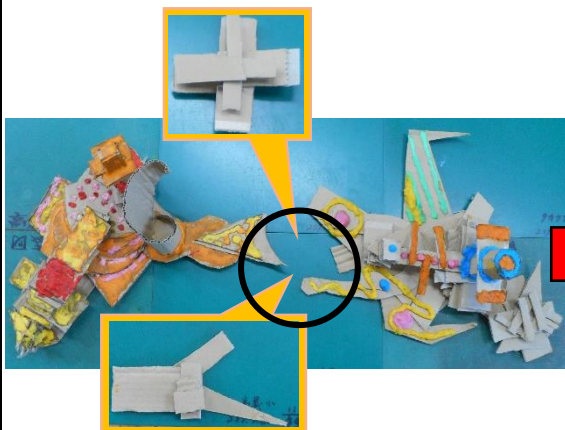


図1 つなげる場所を見付ける

※ 洗濯糊に花紙を3枚ずつ、振りながら、計20枚を溶かし、洗濯糊と水が8対2になるようにする。



図2 つなげて、色付けする

あ
じ
わ
う

3. 本時の学習を振り返り、次時の学習について話合う。

- (1) 造形的なよさや面白さ、加工や接着、色付けの工夫、活動を通して、感じたこと、考えたこと、などを伝え合う。

◎ 互いの表現を見ながら、造形的なよさや面白さ、加工や接着、色付けの工夫について、感じたこと、分かったことを発表することで、自分なりの、意味や価値をつくりだすことができるようにする。



段ボールを1枚1枚、木工用ボンドで、はって重ねてC君とつなげてみました。むらき色にクネクネさせて、色付けて、とてもいい感じにすることができました。

- (2) 「ふりかえりシート」を記入して、発表し合い、次時の活動につなげる。

○ 本時学習で自分が感じたことや考えたことを書くことで、次時の鑑賞活動につなげることができるようにする。

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

段ボールの加工や接着をしたり、色付けしたりしながら、話し合いを通して、活動を広げていく子ども。